

## 家庭用電気機器

### Electric Household Appliances



図 21.1. トランジスタラジオ  
885 W (GT-Double)

Transistor radio receiver,  
885 W (GT-Double)

Many kinds of electric household appliances applied with new ideas have been developed as listed below.

A. Radios and Acoustic Apparatus: radios with a combined system that is considered to represent the way that future radios should be; separated-type, solid-stated stereophonic apparatus applied with the pressure-balance system and the Magnica speaker; cartridge-type tape recorders expected to replace the present popular open-reel type.

B. TV Receivers: color TV receivers of a new high-ranking console type and a lowboy type provided with a new type of picture tube and the hybrid system; black-and-white TV receivers deluxed and those rendered portable.

C. Electric fans capable of continuous speed variation by the use of thyristors; washing machines with dual baths made of highly rustproof decorative stainless steel; different kinds of dual-temperature refrigerators; new types of ventilating fans, vacuum cleaners, kitchen appliances, combustion apparatus, electric razors, battery clocks, etc. Microwave ovens have also been innovated by the introduction of isolators for protection of magnetrons.

#### 21.1 ラジオ 音響機器

昭和 42 年は、トランジスタラジオについては、前年好評を博したゴールドトーンシリーズをさらに高度化する一方、ステレオについてはファンタジアステレオの高級セパレートタイプ、高級モジュラタイプを、テープレコーダにおいては今後需要の増大が見込まれるカセット方式テープレコーダや同様なカートリッジ方式のリヤジェットタイプなどを開発した。以下製品別に紹介する。

##### 21.1.1 トランジスタラジオ

前年開発したゴールドトーン方式のトランジスタラジオは今までになかったすばらしい音質であると好評を得ている。42 年はこれにこたえるためさらに高度化を設計目標にし、普及形では 8 P-80 や 6H-530 をはじめ、ゴールドトーンシリーズでは 8 M-310 (GT-AM deluxe), 9M-876F (GT-FM), 11 M-860FD (GT-FM), 11 M-880 F (GT-FM stereo), 10 M-880 ST (FM stereo adaptor), 885 W (GT-Double) や 11 H-540 F (GT-Home) などを開発した。

輸出向けとしては前述ゴールドトーンシリーズのほか、15 L-822 F, 19 L-825 F, 14 L-828 F や 17 L-925 F (Auto-tune) などを開発した。

以下に 42 年を代表するトランジスタラジオ三、四機種をリストアップして紹介する。

**885 W (GT-Double)** (図 21.1) これは従来あまり見られなかったタイプのラジオでポータブルまたはホームラジオとして使用できるもので、ラジオ本体・スピーカボックス・AC アダプタから成る 3 点で構成されている。

ラジオ本体 (11 石中形 FM ラジオ) をスピーカボックス上部にそう入することによりホームラジオとなり、ラジオ本体をスピーカボックスから取りはずせばポータブルラジオとなり、FM ステレオアダプタ (10 M-880 ST) を併用すれば FM ステレオも楽しめる。

またスピーカボックスはほかの音響機器 (ラジオ、テープレコーダなど) の音を楽しむように、背面にスピーカ端子を設けてあるので、他の音響機器の外部スピーカとしても使用できる。

なおスピーカボックスにはホームラジオ用に当社の最新技術を結集して開発したフリーニッジ式スピーカ“ニューホニカ”を採用しているので、小口径ながらすばらしいゴールドトーンが楽しめる。

**11 M-880 F (GT-FM stereo)** (図 21.2 右)

**10 M-880 ST (FM stereo adaptor)** (図 21.2 左)

開発のおもな理由としては、すばらしい FM ステレオがどこでも手軽に楽しめるようにと形状をポータブル形として設計開発した



図 21.2. トランジスタラジオ 11 M-880 F (FM stereo) (右)  
10 M-880 ST (FM stereo adaptor) (左)

Transistor radio receiver, 11 M-880 F (FM stereo)  
(right), 10 M-880 ST (FM stereo adaptor) (left)

もので、デザインは木目と黒を基調としたデラックス版である。なお電源は家庭の電灯線からも使用できるように、AC-DCの二電源方式としてある。

10 M-880 ST (FM stereo adaptor) は他の FM ラジオ 9 M-876 F (GT-FM) や 885 W などにも併用できる。

11 H-540 F (GT-Home) (図 21.3)

トランジスタラジオの音はホームラジオに向かないといわれてきたが、これを一掃するように 885 W 同様、スピーカに“ユーホニカ”を採用し豪華な完全密閉木製キャビネットに収めた本格的なゴールドトーンホームラジオとして開発した。

その他最大出力 2.5 W (MPO 方式)、テープ録音ジャック、PU 端子付などの特長を備えている。

### 21.1.2 ステレオ電蓄

42年はずっと好評の音楽都市シリーズに、前年好評の卓上セパレート“ナポリ”の FM 化 (FS-2000 F) をはじめ、同じく卓上セパレートステレオ“セントルイス” (FS-3100) やハイクラスの性能を備えたモジュラタイプの“ソフィア” (FS-2500 M) (図 21.4)、横長キャビネットのヨーロッパスタイルの“オスロー” (FS-7700 M)、高級セパレートステレオではソリッドステートステレオのエリートと呼ばれる“ボストン” (デラックス・FS-7300 M) (図 21.5)、(カスタム・FS-7400 M) (口絵) などを開発した。

次に 42 年を代表するステレオ電蓄を二、三紹介する。

“ソフィア” (FS-2500 M) 前年来卓上ステレオ電蓄は需要の増加いちじるしく、これはわが国の家屋構造たとえば団地の 2DK、3DK とか狭いへやで場所をとらず(机の上、本だななど) 気軽にステレオが楽しめるということもその理由の一つと考えられる。

当社はこれらの需要にこたえるため、前述のように“ナポリ”“セントルイス”に続けてワンランク上を目標にした高級モジュラタイプとして開発した。

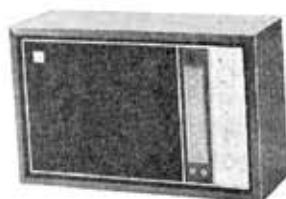


図 21.3. トランジスタラジオ 11H-540F (GT-Home)

Transistor radio receiver, 11H-540 F (GT-Home)



図 21.4. ファンタジアステレオ FS-2500 M “ソフィア”  
Stereophonograph “Sofia”, FS-2500 M



図 21.5. ファンタジアステレオ FS-7300 M “ボストン” (デラックス)  
Stereophonograph “Boston” (Deluxe), FS-7300 M

性能的には、ステレオ電蓄の心臓部ともいえるレコードプレーヤに 28 cm の大形ターンテーブル、スタティックバランス方式のバイプアーム、ハイコンプライアンスのセラミックカートリッジと高級機の要素を持ち、あわせてレコード針には当社が開発した長寿命“ウルトラ C”を使用したプレーヤを採用、一方アンプ部は 19 石 14 ダイオードを使用し FM マルチ付、総合出力 30 W のオールトランジスタ式である。外形寸法は幅 81×奥行 34×高さ 30 (cm) である。

“ボストン” (デラックス・FS-7300 M, カスタム・FS-7400 M)

卓上ステレオの好評とあわせてここに紹介する“ボストン”は写真でもわかるように高級セパレートステレオであるが、前述“ソフィア”とベストセラーのトップを争う主力機種で、デラックス 7 万円台、カスタム 8 万円台の 2 種類がある。

好評の理由としては従来高級セパレートステレオは 10 万円以上というのが常識とされてきたが、当社はこれを 7~8 万円台とすることに成功、あわせてコンソールタイプを好む需要にマッチした豪華なキャビネットに収められた数多くの特長もその理由の一つと考えられる。

“ボストン”にはデラックスとカスタムの 2 種類があり、レコードプレーヤに、前者はオートプレーヤ方式、後者には 7 枚ものレコードが自動演奏できるオートチェンジ方式を使用したことが、両者の特長でおもな相違点である。

そのほか共通する特長として、プレーヤ関係ではスタティックバランス方式のプロフェッショナルタイプの無共振バイプアーム、28 cm の大形ターンテーブル、ランブルの少ないプロフェッショナル四極電動機、レコード針は“ウルトラ C”などを使用している。

スピーカ部は“PB 方式”の密閉箱で、スピーカには当社が発明した“マグニカ”を使用、2 ウェイ 4 スピーカシステムである。キャビネットは天然ウォールナット材の木目の美しい部分を選んで高級オイル仕上げをしたもので、日本間、洋間いずれにも調和するデザインである。

一方アンプ部は総合出力 35 W、FM マルチ付オールシリコントランジスタ (22 石) 式で FM ステレオ受信可能、ヘッドホン端子、スリーピングスイッチやテーププレーヤと 1 本のコードで録音再生ができるステレオ録音端子 (DIN 方式) 付などの特長を備えている。

### 21.1.3 テープレコーダ

オランダ フィリップス社の開発になるカセット式テープレコーダは、その方式が従来方式に比べ画期的なものとして注目された。

この方式は従来テープレコーダのオープンリール方式 (リールツウ リール方式とも呼ばれる) をテープ幅など従来テープの約 1/2 とし、小さな箱 (カセット・商品名) に収めたものと考えてよいだろう。したがって小形 (カートリッジ寸法、ほぼ 10×6.5×0.9 cm) ながら演奏時間は片面 30 分、往復 1 時間もある。

操作は録音・再生、早送り、巻もどしなど従来と変わらないが、第一の特長はカセット (カートリッジ) であるから、わずらわしいテープ交換が全く不要であることと、小形にできかつ音質がすぐれているなどの特長をもち、今後期待できる商品である。

当社が開発したカセットレコーダ KT-20 P (図 21.6) は簡単に持ち運べる小形軽量 (幅 13.6×奥行 25.9×高さ 6.5 cm, 重量 2.2 kg) のポータブル形で、わずらわしいテープ交換はわずか 1 秒、カ



図 21.6. カセットレコーダ KT-20 P  
Cassette recorder, KT-20 P